

● 中聖牛の設置・竣工を祝う会 12月2日(土) 38人出席で晴天に恵まれ大盛況延べ総参加者 315人

この間 竹蛇籠製作学習研究会を 39日 39回実施しました。聖牛の設置で堤防に直接あたる水流をはる役割を果たし堤防保護を狙ったものです。その中心は巨大な木材で骨組みを組み根元に竹蛇籠にくるんだ玉石の重量で固定化を図ろうとする装置です。完成までに様々な取組みがありますが、その最も大切なのは竹蛇籠の編み上げと思われます。2年前の18本を目標に170人が2日間かかって15本を完成したものです。今回はそれをはるかに上回る27本が目的だったのです。当初底辺の組み合わせの固定化に2時間を要したもので、要領を飲み込むのに試行錯誤の繰り返し、そして胴部分の飲み込みにも相当な時間がかかり想像を絶する苦闘が続きました。竹の伐採から数えて、やっとのことで1カ月が経過したころに技術をつかみ始め、熟達する間も無く製作学習研究会を迎えなければなりません。最後に仕上げとなる上部の部分は未完成で不完全となっています。最初の大仕事は、真竹の伐採と運搬でした。広く大きな面積の竹藪の中からできるだけ直線で曲がり少なく真円に近いものを探し出すのは真に困難なものです。加えて7mが条件なので、このクリアが非常に難しきものでした。徐々に、奥に入るほど他の竹とのからみがあって、持ち出しが困難となります。手入れがされていない藪の中からの持ちだすのはまた大変でした。そして笹枝の払落し。寸法に切り落とし、持ち出し、残物の後始末も、運び出すのも苦労です。玉水橋までの運搬にも随分と気を使いました。引き続く竹の利用幅4.5cmに割裂くのも力とスピードが必要ですし、さらに強い腕力が求められるものです。約200本の竹割への挑戦は高齢者には身体的に疲れるものでした。今回は業者が請け負ってくれましたので、助かりました。次の作業はその竹を使つての蛇籠の編みに入ります。数人で簡単に扱えるものとの先入観から安易に考えていましたが、簡単なものではありませんでした。素材を可能な限り曲がりやすく他の割り裂きを徹底的に行っておかないと自由自在に曲げることが出来なく、蛇籠の直径は45cmのですが、寸法には曲がり切らず、太くなってしまいます。また初心者などとの息が合わず、気づいた時には気力と体力がなくなっており、やり直しがきかなくなってしまう、最も困難だったのは右編みと左網の二つの方法になることに気づかず、丁寧に見本を見ないで形を狙った取り組みになるので行き詰まってしまう。先入観で進めるものなのでいくら苦労しても完成させることが出来なくなり、自分ながら情けなくなりました。振り返ってみるとまさに暗中摸索手探りの中での取り組みでした。そのような状態の中でも苦心惨憺(サンタン)、艱難辛苦(カンナンシンク)を乗り越えて、やり遂げようという執念があって取り組んだ結果27本という蛇籠ができたのでした。本当に皆さんよく頑張ってくださいました。

敬意を表します。ご苦労様でした。

続く苦労は台風や雨天続きで、予想してなかった秋の台風の到来で、予定していた日程で事が進まなくなりました。持ちこんだ資材の流失を防ぐために再び元の場所に戻したり、計画した予定日に水位が下がらず予定日程変更が発生することでした。ご協力いただいた工事業者の皆さんには本業以外の作業にご協力いただいたことです。これがなければ、もっと多くの困難が発生してことと思われま。ご協力に感謝いたします。

こうした困難な課題を乗り越えて12月2日に三基の中聖牛が見事に完成設置されました。心から喜びあいたいと思います。関西地方では言葉や文字で目にすることはあっても実物が実現できたのは今回木津川が最初とのこと。今後大勢の皆さんが見学に来られると予想しています。河川敷の通路は今回初めて開拓されたもので、再度の増水で消し去られる場合も発生することが大いに予想されます。今後の対応策が肝心と思われま。

● ミカン農家ボランティア 12月3日 18人が参加 今年はかなり豊作でした。前日には聖牛の設置を完成させ、連続して翌日の3日には、例年実施しているミカン農家への収穫活動に18名の参加がありました。今年豊作年で、昨年比較では相当の収穫増でした。それにしても、午前8時前後にはアライグマがうろつき10時頃にはカラスが畑を荒らします。そして夜間にはイノシシがミカン畑を我が物

顔に歩き回ってくるということが明確になったという地主さんの言葉が強く残りました。獣害被害は終日続き、地上に近い低いミカンは、ほとんど彼らの食物になって無くなっていました。昨年度もこうした被害が発生し、12月になると一日も早い収穫が待たれているようです。

● **京都環境フェスタへの出店** 12月8日～10日 里山の会は竹蛇籠(4mの現物)の持ち込みを考えています。ポスターの掲示ではオオムラサキ 聖牛写真 カスマサンショウウオ発見などの新聞記事を中心にした展示を予定です。 竹田のパルスプラザです。

● **オオムラサキの観察会** 12月23日(土) 10時～12時開催 幼虫の発見を行います。ナラ枯れ木の伐採がどのような影響が出てくるのか興味があります。ぜひお越しください。引き続き保存のためにカスマサンショウウオの移植検討会を開催いたします。絶滅寸前種とされ、京都府の絶滅の恐れのある生き物と指定されているもので、同日(12月23日)14時から里山農園または里山の会事務所で開催を予定しています。ご関心のある方のご参加をお待ちしています。

● **年末餅つき大会としめ縄つくりを計画しています** 12月24日(日) 木津川流域センター(木津川市山城町地北川原)10時～12時、 参加費 小人200円 大人500円 受付人数 50人で予定しています先着順で受け付けますので、FAXやメールでご連絡ください。餅つき代 1.8kg(約1升)1000円 (一昼夜水につけてもの当日持参) 臼と杵でつきあげます10臼分受付

試食会として、きな粉餅 おろし餅 海苔餅 エビ餅 あんこ餅 ウル餅 醤油餅 味噌餅などを用意する予定です。お楽しみに。 引き続き 午後1時から好評の「しめ縄つくり」を計画しています。なお参加者少数の場合は、餅つきと同時進行とします。参加費無料 橙や裏白など備品は各自ご持参ご用意ください。

● **12月2日の中聖牛設置・完成を祝う会での理事長の挨拶を掲載紹介します。**

今日はお忙しい所お集まり下さいます。9月初旬から中聖牛を作る為、竹蛇籠を27本作る話が、京都大学の竹門先生から、やましる里山の会に話がありました。我々里山の会も、高齢化が進みできるかどうか非常に不安でした。9月30日、竹蛇籠の作り方講習会を実施しました。18人の参加がありました。9月4日に竹の切り出しと運び込み、そして竹割り作業が行われた。2年前に作成した経験はありましたが、出来ればいいという気持ちで取り組んでいたため、すっかり忘れておりました。



しかし、そんなことは云っておれません。参加された方がすぐに編み始められるように、それまでに竹蛇籠の底辺部分を作りました。10月1日組み合わせ竹蛇籠11基完成させました。10月2日編み上げ研究を会員の中で実施10月7日講習会22名参加がありました。九州大分市から松本さんが車で参加、静岡、滋賀県 広島県、兵庫県、奈良県、大阪府、京都府、大学生、淀川河川事務所、地元の方々が参加、10月8日講習会32名参加22本作成、10月9日里山会員8名2本作り 24本作成、10月16日里山会員3名で27本目の完成、11月11日と12日2日間で中聖牛設置の枠組みを3基作りました。静岡からこの伝統工法のエキスパートである原小組の社長さん以下6名の方々が、かけつけて下さいました。この間の参加延べ人数は60名でした。竹蛇籠や中聖牛は護岸対策や治水に優しい自然環境づくりに役立つよう魚の住みか作りを行います。

今回木津川において竹や玉石など地元の資材を使用する古来からの伝統河川工法を用いて再現しました。同時に現代に欠かすことの出来ない地域住民と行政、大学などとのつながり、地域づくりや河川愛護に役立つ新しい絆づくりを目的とするものです。この度京都大学や諸団体との協力が実現し中聖牛の完成を記念してさらに新たな絆が深まり故郷の川づくりに役立つことを記念して竣工式を開催します。10月21日と22日にかけて竣工式を開催する予定にしていますが、台風21号の襲来で延期をせざるを得ないことに成りました。しかし、今日静岡県島田市から再び在来工法のスペシャリスト原小組の社長さん初め社員さんを迎えて、中聖牛設置を行えます事は我々に取って心強い限りです。また、役所は休みの所この催しに参加して下さいました近畿地方整備局淀川河川事務所の東出事務所長の参加を頂きました。厚く御礼申し上げます。これまでの取組の経過をご披露し挨拶にかえさせて頂きます。